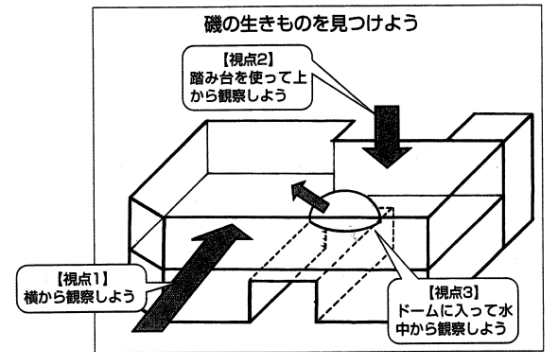


# 磯の環境 潮間帯の生物

～磯の生き物を観察しよう～

海底に砂や泥がたまっておらず、岩がむき出しになっている海岸を、岩礁海岸または磯といいます。ここでは、磯で生活する生きもの様子をわかりやすく展示しています。

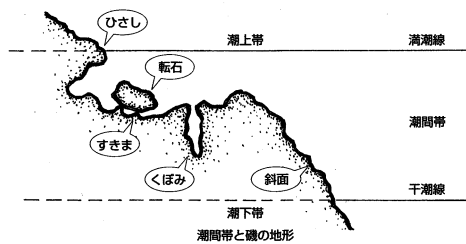
水槽は、「3つの視点」から観察できるように工夫しています。



## 「潮間帯」とは？

海水面はいつも同じ高さにあるのではなく、1日に2回、高くなったり（満ち潮）、低くなったり（引き潮）します。これは月の引力によって起こる現象で、満月と新月のときには特に大きくなります（大潮）。

磯は、海水面との関係で、潮上帯、潮間帯、潮下帯の3つに区分されています。



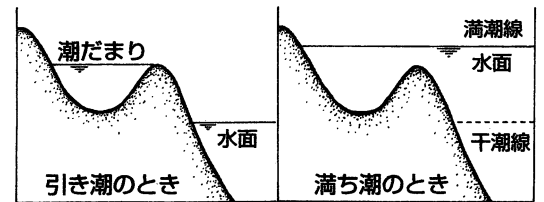
## 「潮だまり」とは？

引き潮になると、岩のくぼみに海水が取り残されます。それを潮だまり（タイドプール）といいます。

潮だまりは、生きものにとって、暮らしやすいところなのでしょう。潮が引くと空気にさらされ、太陽の光がまともに当たって乾燥します。

また、温度も上がります。潮だまりも高温になり、塩分が濃くなります。しかし、一たび雨が降ると、今度は急に温度が下がり、塩分もたいへん薄くなります。だから磯は生物が生活するには厳しい環境だといえます。

それでも生物がたくさん見られるのは、たえず海水が動いているので酸素も多く、陸から流れ込んでくる水や打ち寄せる波によって動植物の死骸など磯の生きもののおもてなしとなるものがたくさん運ばれてきたり、天敵となる他の生物が入り込みにくいからなのです。



## 磯には、どんな生きものがいるだろう？

このような厳しい環境の中で生きぬき、子孫を残すため、それぞれの生物が生息場所の選び方、波にさらわれないための付着方法など、様々な工夫を凝らしています。

また、環境の変化に耐え抜くためには、よほど抵抗力の強い体の仕組みを備えていなくてはなりません。まるい形や星形など、頭や胴などの区別がわからないもの、岩に固くとりついているものなどが観察できます。魚を除くとウニ、ヒトデ、ナマコ、ヤドカリなどのなかまが多くみられます。

## 探究・研究コーナー！ 調べてみよう！

青少年科学センターに来館し、水槽をしっかりと観察して、いろいろな生きものを見つけよう。また、見つけた生きもの名前を調べてまとめてみよう。

